

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和3年度農作物病虫害発生予察情報について

令和3年度農作物病虫害発生予報第14号を発表したので送付します。

令和3年度農作物病虫害発生予報第14号

令和4年3月2日
徳島県

I. 果樹
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 勝浦町における昨年の予察灯誘殺数は、ツヤアオカメムシは平年に比べて少なく推移したが、チャバネアオカメムシは9月以降、平年に比べてやや多く推移した。一方上板町では、各種カメムシともに8月以降、平年に比べて多く推移した(表1)。

表1 勝浦町及び上板町における各種カメムシの予察灯への誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	勝浦町			上板町			月	勝浦町			上板町		
	2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年		2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年
4	0	0	15	6	5	5	4	0	0	9	3	0	16
5	71	52	429	220	187	61	5	67	24	175	82	30	195
6	56	95	677	80	85	63	6	14	57	112	45	58	99
7	51	70	399	145	13	334	7	42	140	289	100	136	74
8	442	97	1239	229	61	197	8	411	269	977	1428	171	102
9	170	77	814	1223	70	129	9	1147	160	939	2569	165	112
10	275	92	821	1401	24	20	10	1033	45	419	602	5	131
11	31	22	55	94	1	0	11	1	2	1	1	0	11

(2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、8地点で越冬を確認した。越冬成虫は2.0頭/m²であり、平年(2.4頭/m²)並の越冬密度で、前年(成虫確認地点数は6地点、越冬成虫数は0.8頭/m²)に比べてやや高い越冬密度であった。

(3) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

II. 野菜
冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が16.0%、発病度が0.8)。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が10.9%、発病葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 病斑は主に葉裏に形成されるので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が8.9%と、平年(46.6%、3.4%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%と、平年(10.2%)に比べてやや高いが、発病率は0.1%と、平年(0.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が11.0%、発病葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が28.6%と、平年(56.4%)に比べて低いが、発病葉率は11.3%と、平年(6.6%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤が下葉の葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が3.1%、寄生葉率が0.1%)。

(2)高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%と、平年(43.6%)に比べてやや低く、寄生葉率は0.3%と、平年(6.4%)に比べて低い。なお、被害果実は認めていない(平年同時期は被害果率が1.5%)。

(2)高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「多」

2)予報の根拠

(1)2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が71.4%、寄生葉率が15.3%と、平年(33.3%、2.7%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

(1)2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%と、平年(4.5%)に比べてやや高く、寄生葉率は3.1%と、平年(0.1%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

(2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、発病葉率が1.8%と、平年(64.4%, 8.3%)に比べて低い。
 - (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
 - (2) 罹病葉は圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
 - (3) 同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

灰色かび病

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が8.9%、発病果率が0.3%)。
 - (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
 - (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
 - (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
 - (4) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
 - (5) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

べと病

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(45.0%)に比べてやや低く、発病葉率は0.6%と、平年(10.2%)に比べて低い。
 - (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
 - (2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
 - (3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
 - (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(53.9%)に比べてやや低く、発病葉率は0.6%と、平年(9.0%)に比べて低い。
 - (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
 - (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が8.9%、寄生葉率が0.4%)。

(2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が31.1%、寄生葉率が3.1%)。

(2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 2月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(10.0%)に比べて高いが、寄生葉率は0.4%と、平年(0.4%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報の内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が6.9%、発病度が0.5)。

(2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。

(2) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

(3) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

- (4) 病原菌は被害株に付着越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染する。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているため、速やかに処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が41.7%と、平年(37.3%)並の発生であるが、1株当たり寄生虫数は0.0頭と、平年(0.2頭)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているため、薬剤が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.7%、発病果率が0.1%と、平年(7.1%, 0.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.7%と、平年(2.1%)に比べて高いが、発病葉率は0.2%と、平年(0.1%)並の発生である。なお、発病果実は認めていない(平年同時期は発病果率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬剤が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ、除去した後圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が30.8%と、平年(26.4%)に比べてやや高いが、寄生株率は3.7%と、平年(3.8%)並の発生である。
 - (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
 - (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が23.1%、寄生葉率が5.8%と、平年(70.0%、14.2%)に比べて低い。
 - (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
 - (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.7%、寄生花率が0.3%と、平年(17.1%、0.8%)に比べてやや低い。
 - (2) 高松地方気象台が2月24日に発表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
 - (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

III. その他

1. 施設栽培において暖房機の最低気温の設定値を下げ過ぎると、低温性病害の発生を著しく助長する恐れがあるので、注意する。
2. 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。